

令和6年度アンケート調査結果(全体的傾向)

大災害への備えについて ～ 地域や家庭の防災力を高めよう！ ～

令和6年10月 富山県消費者協会
富山県消費生活研究グループ連絡協議会

調査目的

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、これまで比較的災害が少ないとされてきた富山県内でも震度5強を観測するなど、甚大な被害に見舞われました。
震災を機に、私たちは、災害への備え・対応などについて、一人ひとりが改めて考え、取り組んでいくことが必要です。
そこで、今回、災害に対する意識や備え等の状況を把握し、地域や家庭の防災力向上、安全・安心な消費生活を送るための検討・参考資料とすることを目的にアンケート調査を実施しました。

調査時期

令和6年6月下旬～7月下旬

調査方法

紙面調査(自記入式)及びインターネット調査

回答者数

1,616人(紙面回答1,275人(78.9%)、ネット回答341人(21.1%))

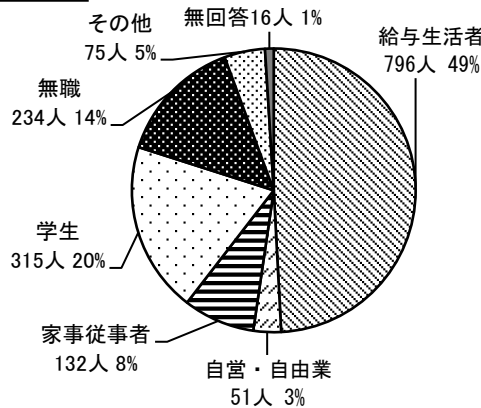
性別

男性 555人(34%) 女性 1,016人(63%) その他 6人 無回答 39人(2%)

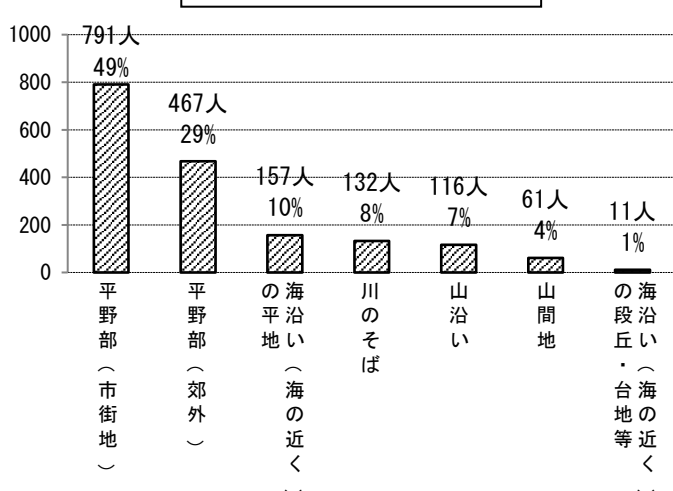
年代

年代	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
	244人	164人	122人	196人	276人	258人	347人	9人
	15%	10%	8%	12%	17%	16%	21%	1%

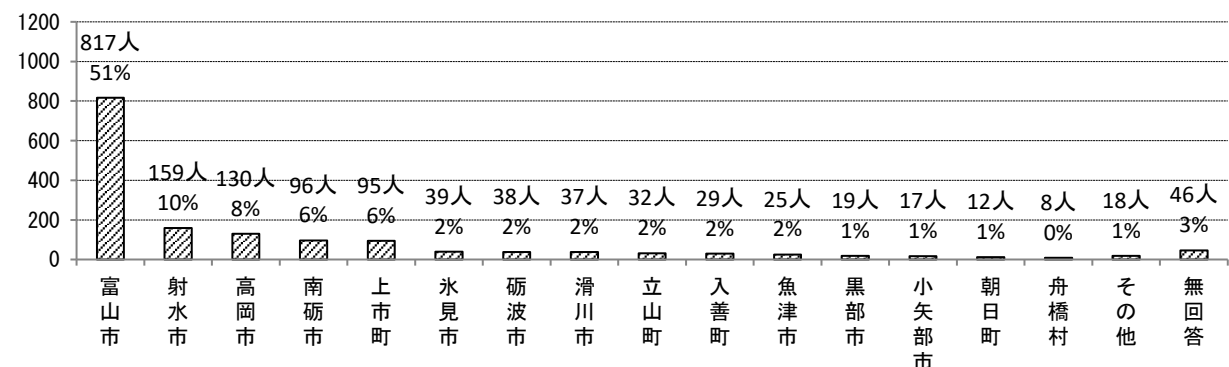
職業



お住まいの地域(複数回答可)



地域別

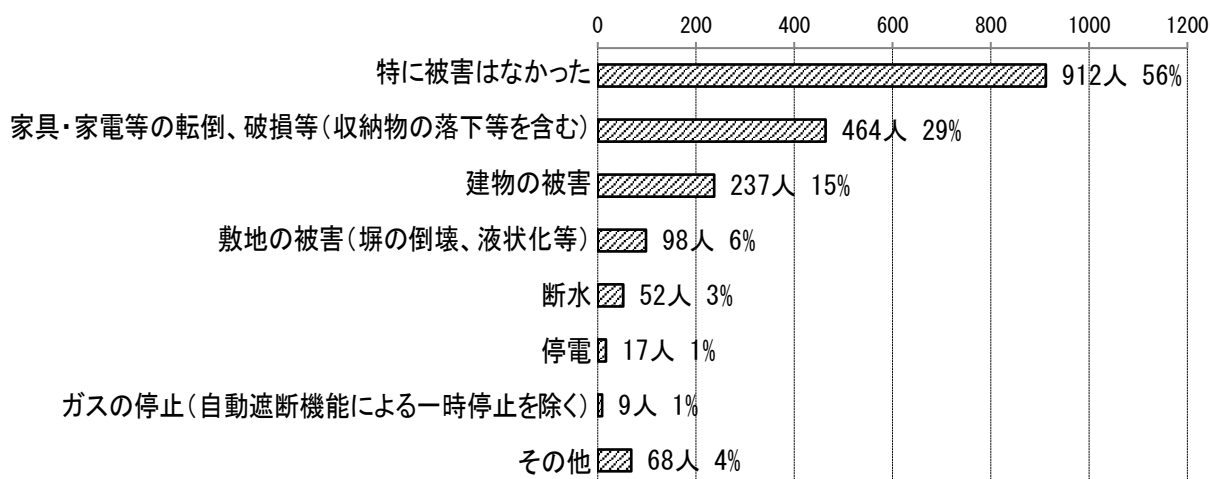


調査結果

I 令和6年能登半島地震に関して

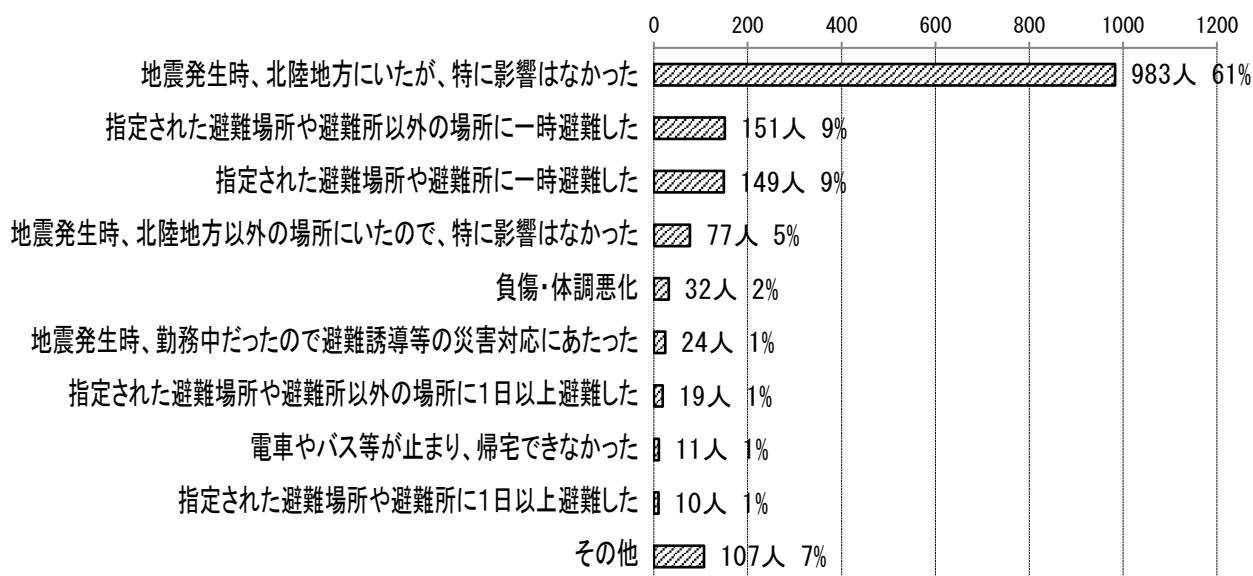
問1 能登半島地震による被害の有無や影響等についてお答えください。

(1) ご自宅（賃貸アパート・下宿・寮等を含む）について（該当するものすべて）



「特に被害はなかった」と回答した人は56%で、44%の人は何らかの被害等があり、「家具・家電等の転倒、破損等（収納物の落下等を含む）」が29%、「建物の被害」が15%、「敷地の被害（塀の倒壊、液状化等）」が6%である。電気・ガス・水道のライフラインでは、「断水」が多い。また、「その他」として、「庭の灯籠の倒壊」や「墓石のずれ、転倒」などの被害もある。

(2) ご自身について（該当するものすべて）

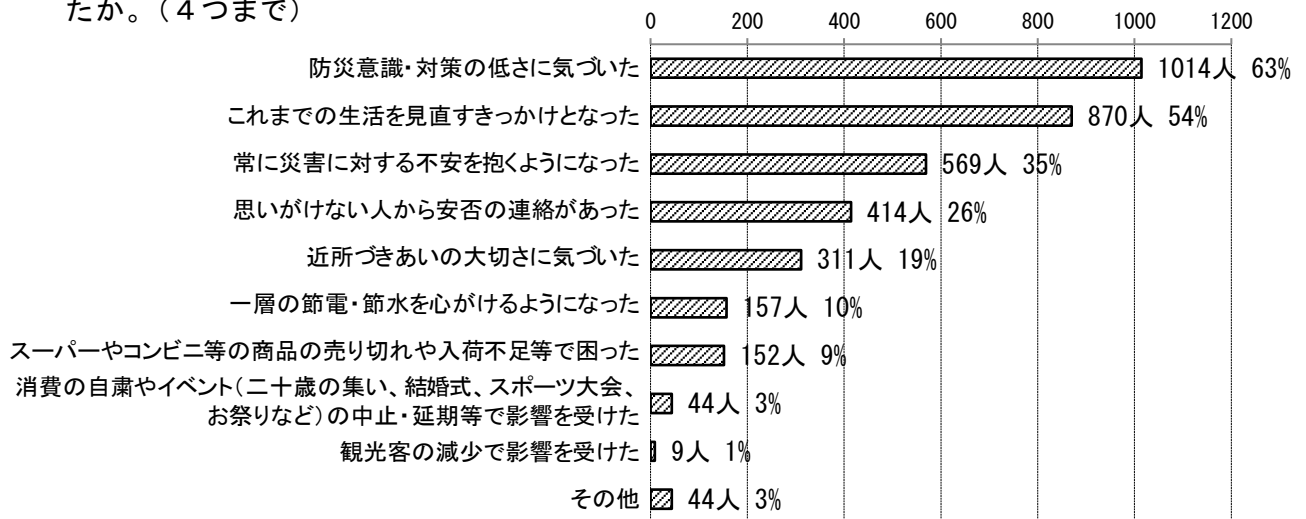


61%の人は「地震発生時、北陸地方にいたが、特に影響はなかった」と回答。また、「地震発生時、北陸地方以外の場所にいたので、特に影響はなかった」と回答した人が5%である。

20%の人が避難し、内訳は、「指定された避難場所等に一時避難した」と「指定された避難場所等以外の場所に一時避難した」がともに9%、「指定された避難場所等に1日以上避難した」と「指定された避難場所等以外の場所に1日以上避難した」がともに1%である。

また、「その他」として、「地震発生後、出社・出勤し、災害対応にあたった」といった回答が多くあるほか、「指定避難場所が閉鎖しており、家で待機した」「交通渋滞で避難所に行けなかった」等の回答もある。

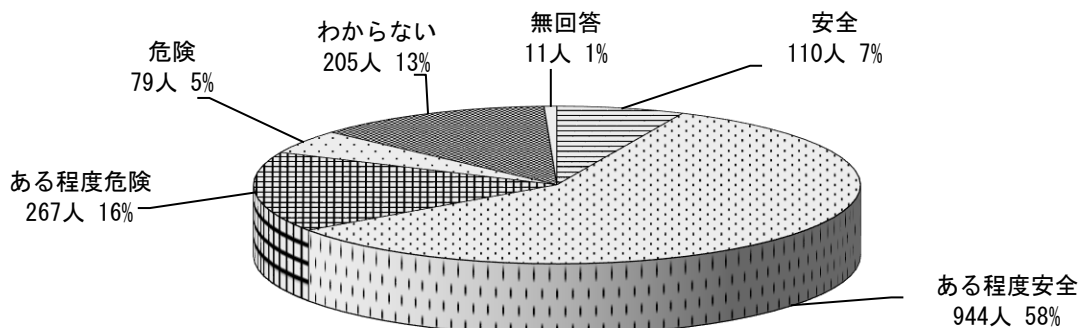
問2 能登半島地震によって、あなたは物質的な面や精神的な面でどのような影響を受けましたか。(4つまで)



「防災意識・対策の低さに気づいた」が63%と最も高く、「これまでの生活を見直すきっかけとなった」54%、「常に災害に対する不安を抱くようになった」35%である。
また、消費行動に関しては、「一層の節電・節水を心がけるようになった」10%、「スーパーやコンビニ等の商品の売り切れや入荷不足等で困った」9%である。

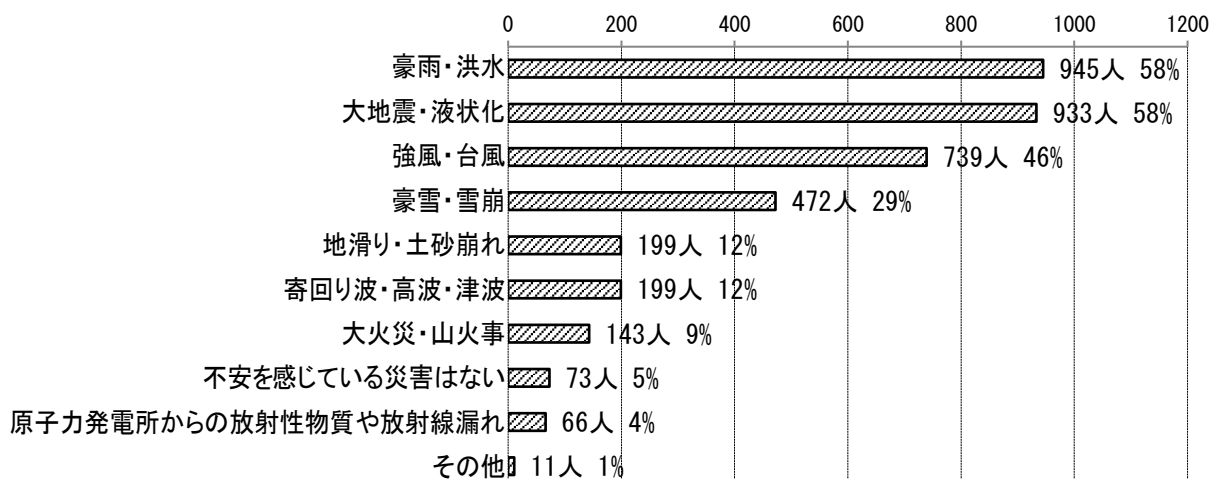
II 災害・防災の意識などについて

問3 あなたの住む地域は災害に対し安全だと思いますか。(1つ)



「安全」7%と「ある程度安全」58%を合わせると65%で、「危険」5%と「ある程度危険」16%を合わせた21%よりも3倍高い。
一方、「わからない」が13%である。

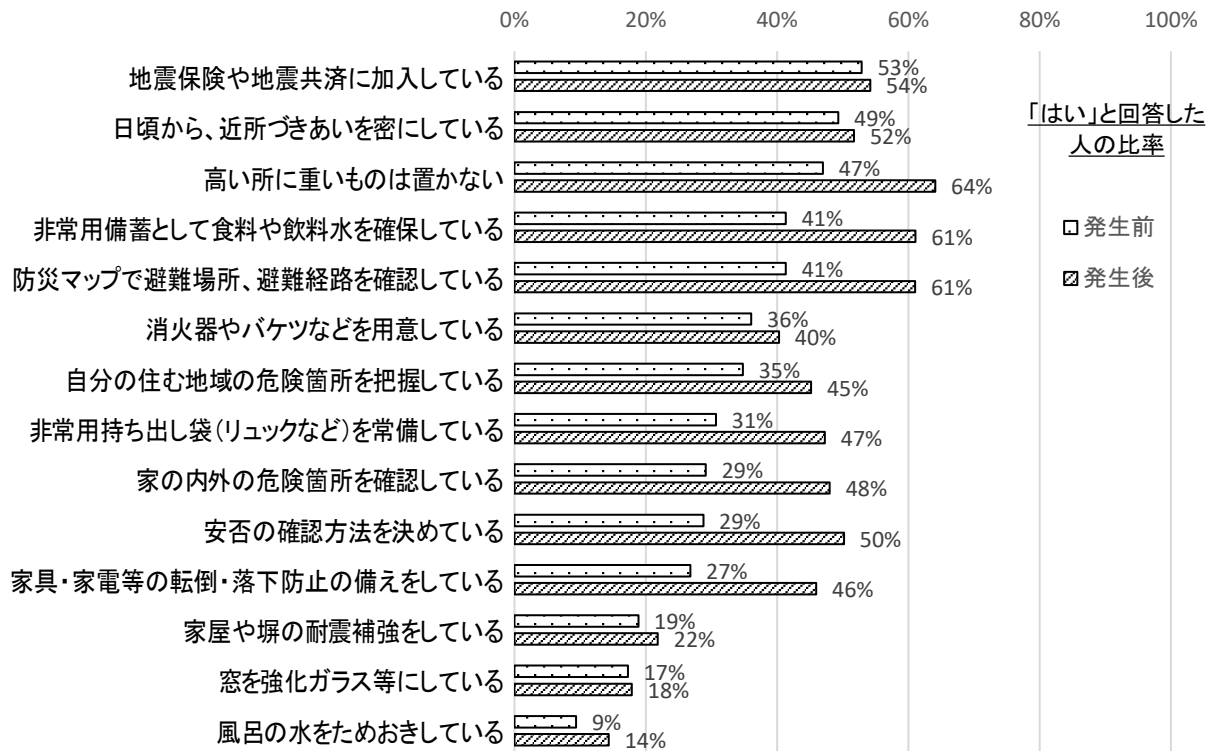
問4 あなたの住む地域で心配だと感じている災害は何ですか。(4つまで)



「豪雨・洪水」と「大地震・液状化」がともに58%と高く、「強風・台風」46%、「豪雪・雪崩」29%である。
一方、「不安を感じている災害はない」が5%である。

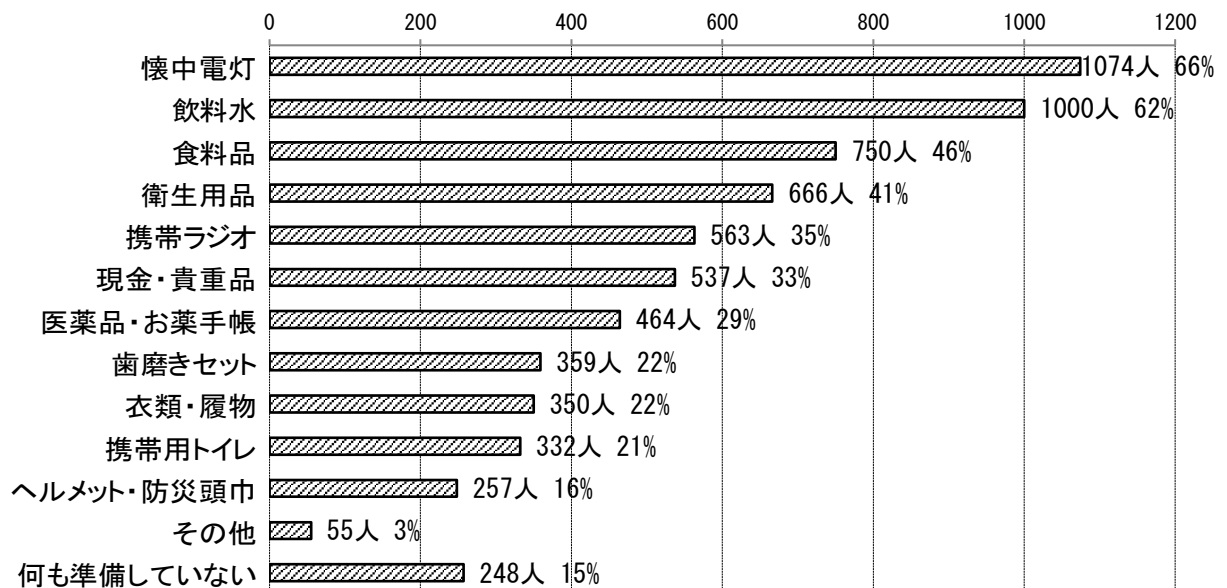
Ⅲ 災害に対する備えに関して

問5 災害への備えとして、あなたの準備・対策の状況を、能登半島地震発生前と発生後についてお答えください。（発生前、発生後それぞれについて「はい」「いいえ」で質問）



能登半島地震発生前に比べ、いずれの項目も、地震発生後に準備・対策状況が高くなっている。「高い所に重いものは置かない」64%、「非常用備蓄として食料や飲料水を確保している」61%、「防災マップで避難場所、避難経路を確認している」61%と高く、地震発生前からの伸びも大きい。また、「安否の確認方法を決めている」「家の内外の危険箇所を確認している」「家具・家電等の転倒・落下防止の備えをしている」「非常用持ち出し袋を常備している」も大きく伸びている。

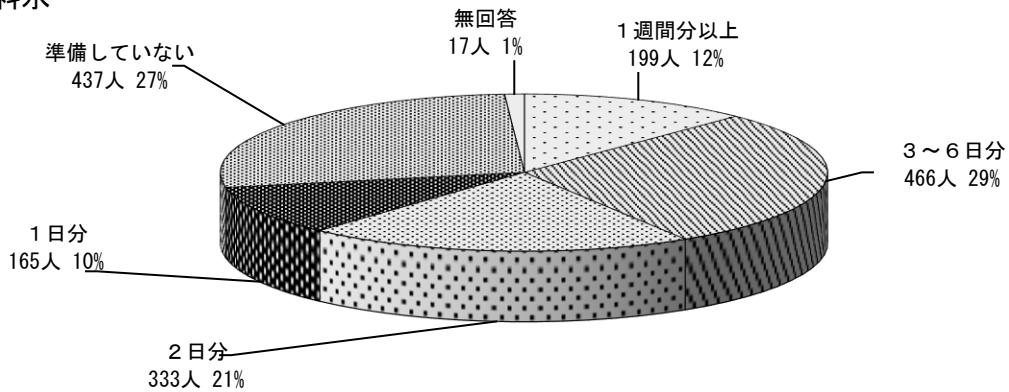
問6 非常用持ち出し品として準備しているものは何ですか。（該当するものすべて）



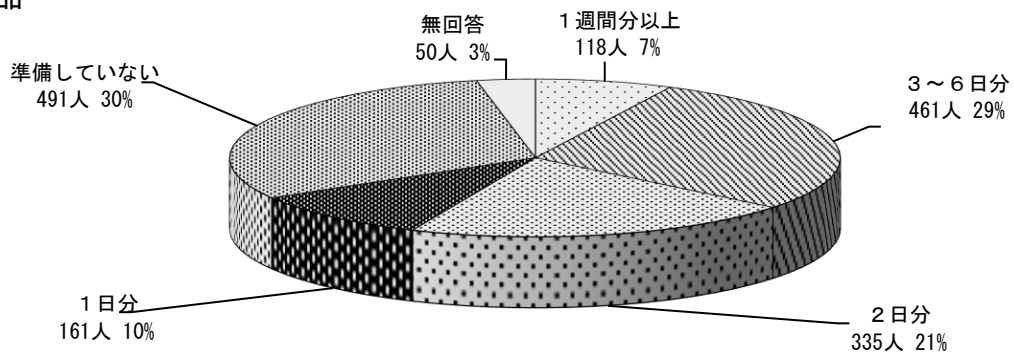
「懐中電灯」66%と「飲料水」62%が高く、「食料品」46%、「衛生用品」41%である。一方、15%の人は「何も準備していない」と回答。

問7 あなたのお宅では、災害時に備えた食品や飲料水の家庭備蓄として何日分を準備していますか。

(1) 飲料水

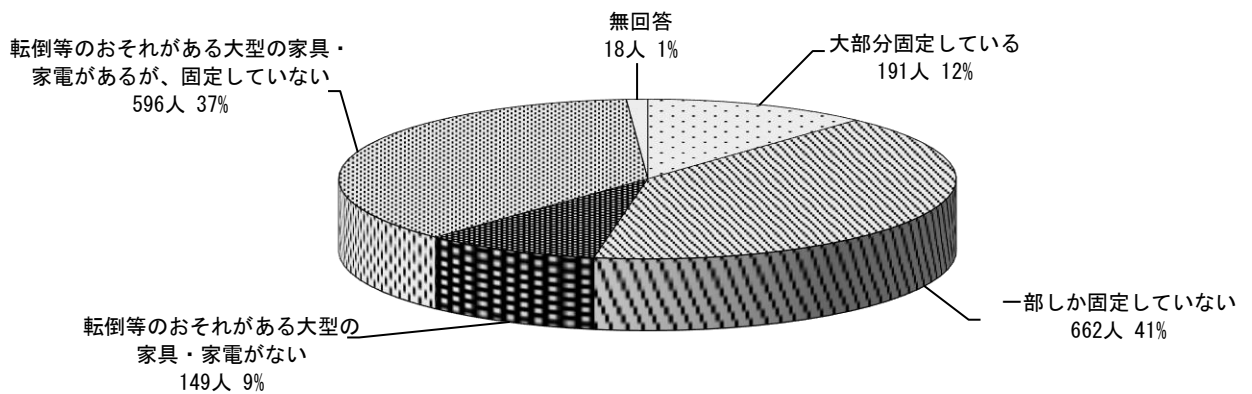


(2) 食品



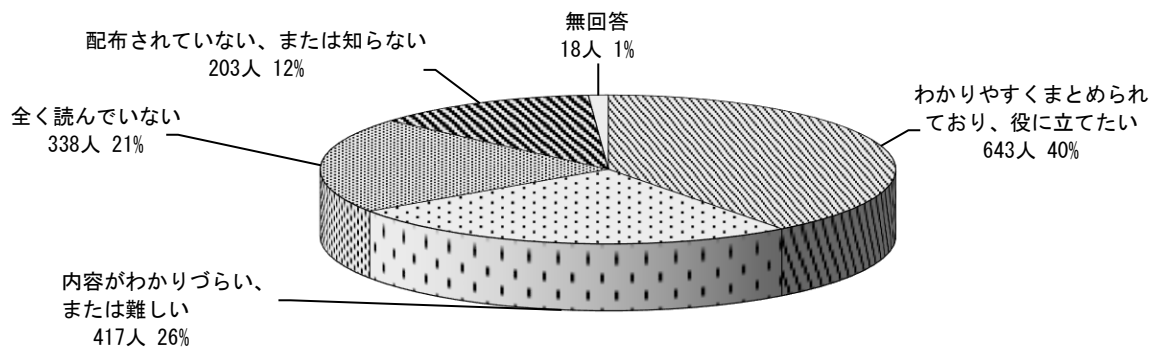
飲料水、食品ともに「3～6日分」29%、「2日分」21%、「1日分」10%で、飲料水では「1週間分以上」12%、食品では「1週間分以上」7%である。
一方、飲料水を「準備していない」が27%、食品を「準備していない」が30%である。

問8 あなたのお宅では、大型の家具・家電等の転倒・落下防止の備えは、どの程度していますか。(1つ)



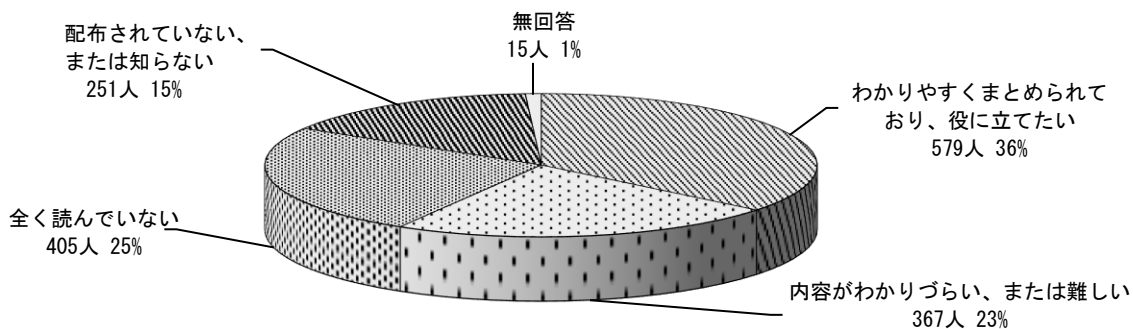
「大部分固定している」12%と「一部しか固定していない」41%を合わせると、53%の人が多少なりとも転倒・落下防止の対応をとっている。
一方、37%の人は、「転倒等のおそれがある大型の家具・家電があるが、固定していない」と回答。

問9 お住まいの地域のハザードマップの内容を知っていますか。(1つ)



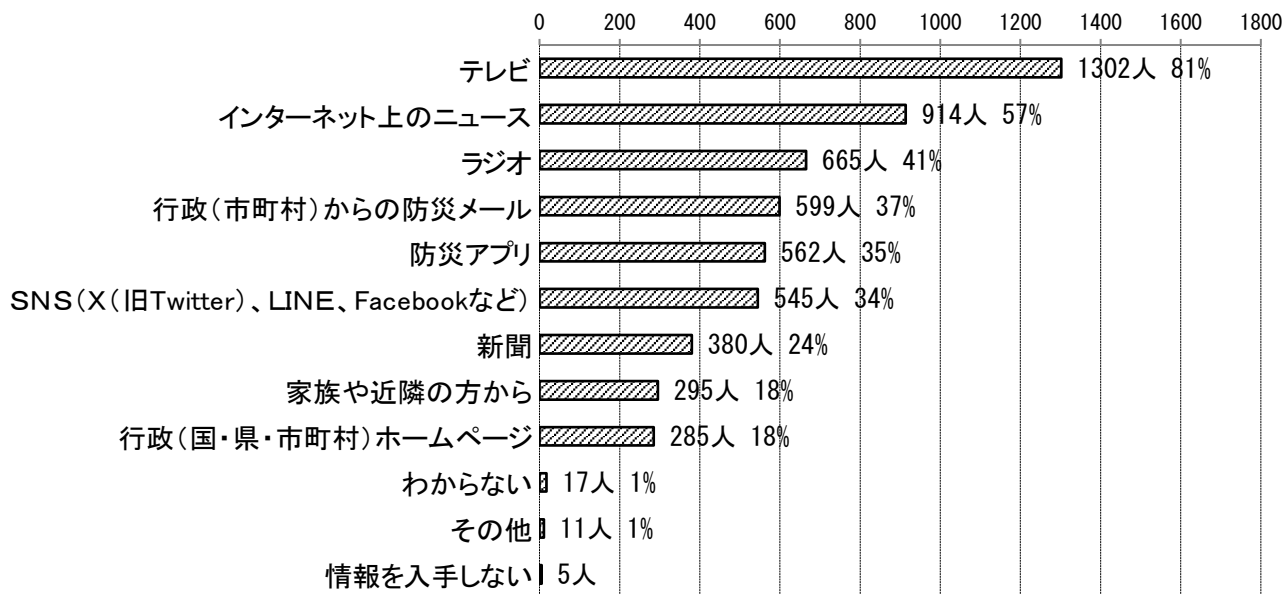
「わかりやすくまとめられており、役に立てたい」が40%と最も高いが、「内容がわかりづらい、または難しい」も26%ある。
 一方、「全く読んでいない」21%と「配布されていない、または知らない」12%を合わせると33%が全く活用されていない。

問10 お住まいの地域の防災マップの内容を知っていますか。(1つ)



「わかりやすくまとめられており、役に立てたい」が36%と最も高いが、「内容がわかりづらい、または難しい」も23%ある。
 一方、「全く読んでいない」25%と「配布されていない、または知らない」15%を合わせると40%が全く活用されていない。

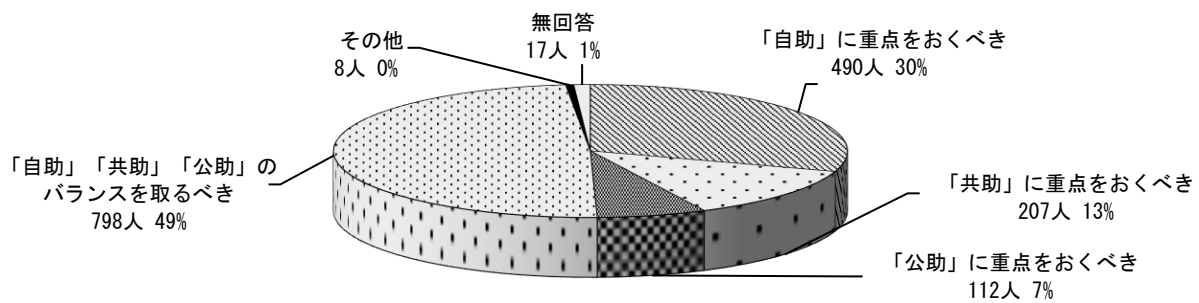
問11 豪雨、台風、地震などの時の気象や河川、避難等に関する情報を入手するために、どのようなものを積極的に活用したいと思いますか。(該当するものすべて)



「テレビ」が81%と最も高く、「インターネット上のニュース」57%、「ラジオ」41%、「行政(市町村)からの防災メール」37%、「防災アプリ」35%、「SNS(X、LINE、Facebookなど)」34%の順となっている。

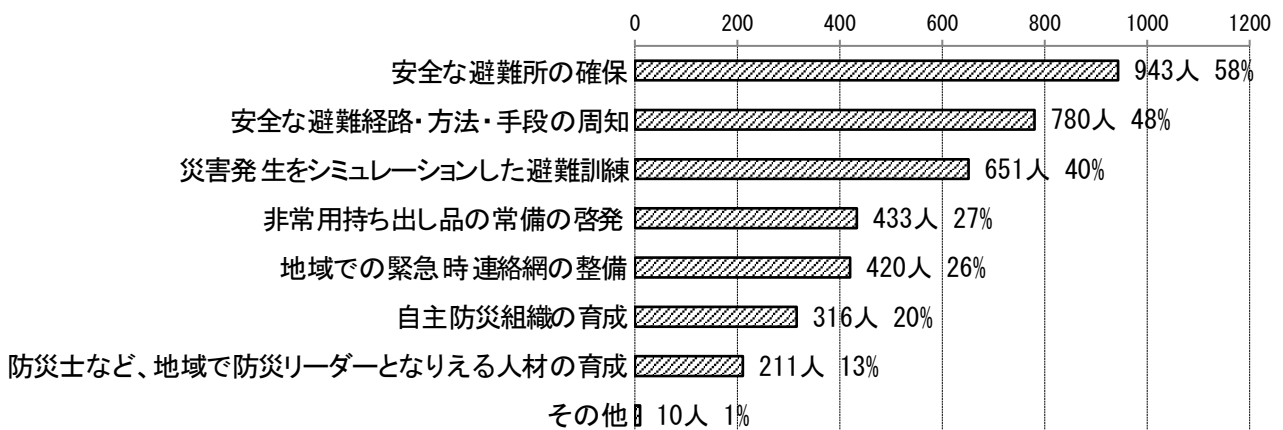
IV 自助、共助、公助に対する考え方について

問12 自然災害が起こった時に、「自助」「共助」「公助」のどれに重点を置くべきと考えますか。(1つ)



「自助」「共助」「公助」のバランスを取るべき」が49%と約半数を占め、「自助」に重点をおくべき」30%、「共助」に重点をおくべき」13%、「公助」に重点をおくべき」7%の順となっている。

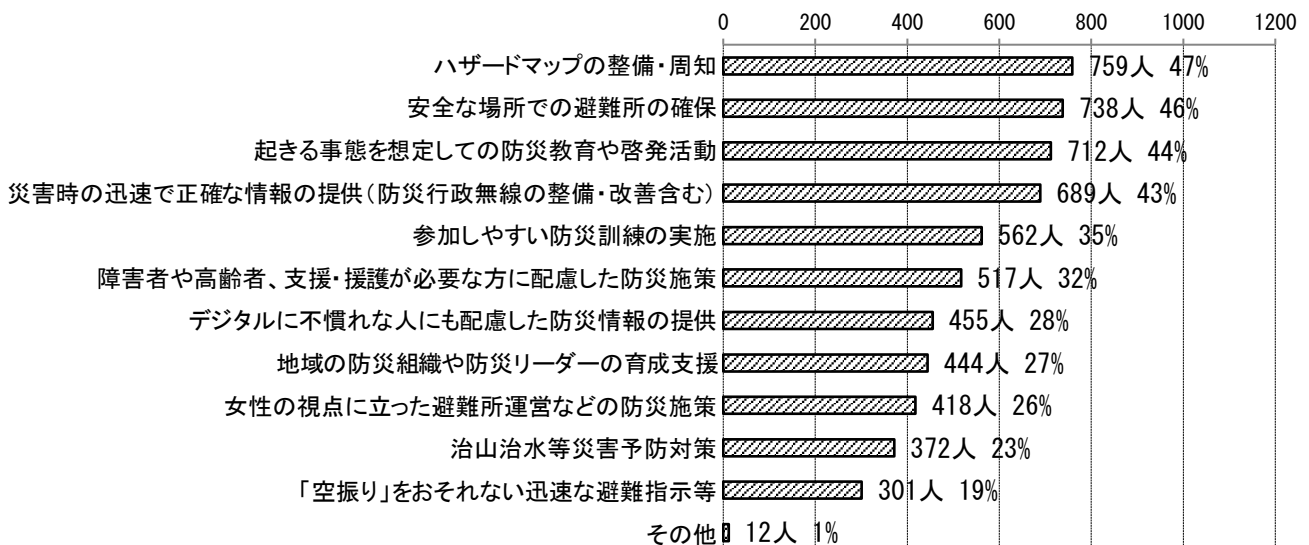
問13 防災について、地域で必要な取組みは何だと思えますか。(3つまで)



「安全な避難所の確保」が58%と最も高く、「安全な避難経路・方法・手段の周知」48%、「災害発生をシミュレーションした避難訓練」40%である。

V 行政に望むこと

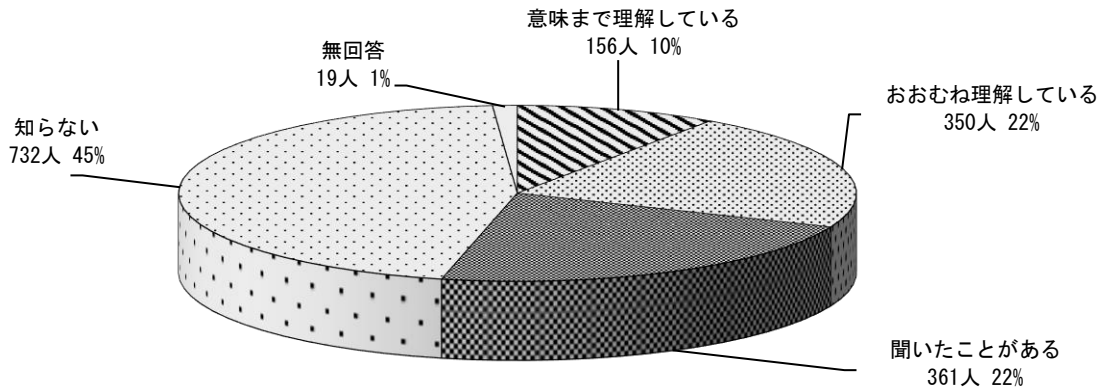
問14 防災について特に行政に望むことは何ですか。(5つまで)



「ハザードマップの整備・周知」47%、「安全な場所での避難所の確保」46%、「起きる事態を想定しての防災教育や啓発活動」44%、「災害時の迅速で正確な情報の提供」43%で、それぞれ半数近くを占めている。

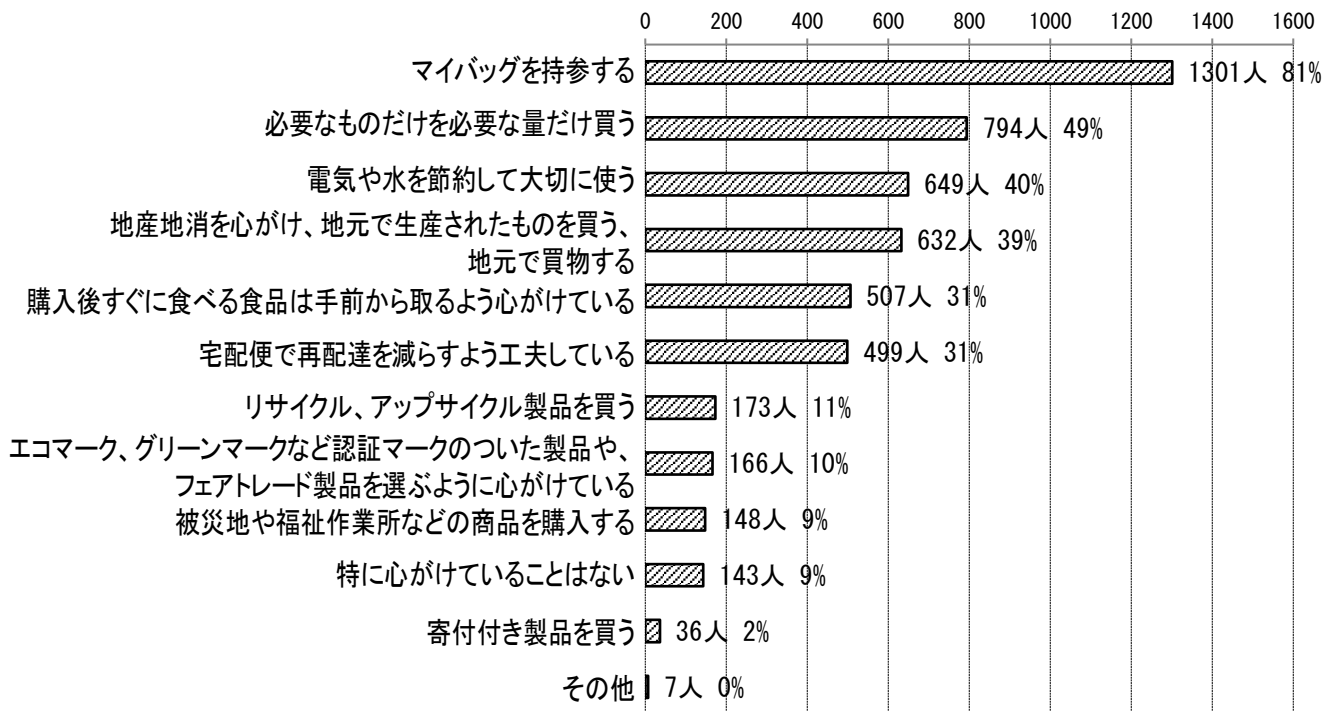
VI エシカル消費について

問15 あなたは、エシカル消費という言葉を知っていますか。(1つ)



エシカル消費という言葉を「意味まで理解している」10%と「おおむね理解している」22%を合わせると32%で、前年度調査の29%から3ポイント高くなり、認知度は3割に達した。
一方、「知らない」は前年度調査と同じく45%で半数近くを占めている。

問16 「エシカル消費」に関する次の具体的な行動のうち、あなたが実践しているものはどれですか。(該当するものすべて)



「マイバッグを持参する」が81%と際立って高く、「必要なものを必要な量だけ買う」49%、「電気や水を節約して大切に使う」40%、「地産地消を心がけ、地元で生産されたものを買う、地元で買物する」39%、「購入後すぐに食べる食品は手前から取るよう心がけている」と「宅配便で再配達を減らすよう工夫している」がともに31%である。

(参考データ)

(1) 「お住まいの地域」と問3「居住地域は災害に対し安全だと思うか」の関連

お住まいの地域	人数	問3 あなたの住む地域は災害に対し安全だと思いますか。				
		安全	ある程度安全	ある程度危険	危険	わからない
平野部(市街地)	791人	55 7%	507 64%	110 14%	20 3%	95 12%
平野部(郊外)	467人	39 8%	297 64%	58 12%	9 2%	63 13%
海沿い(海の近く)の平地	157人	6 4%	44 28%	52 33%	38 24%	17 11%
海沿い(海の近く)の段丘・台地等	11人	0 0%	3 27%	3 27%	2 18%	3 27%
山沿い	116人	9 8%	58 50%	27 23%	6 5%	16 14%
山間地	61人	2 3%	25 41%	18 30%	6 10%	10 16%
川のそば	132人	6 5%	63 48%	35 27%	11 8%	17 13%
全体	1,616人	110 7%	944 58%	267 17%	79 5%	205 13%

無回答11

※「全体」は、実人数の数値

(2) 「お住まいの地域」と問4「居住地域で心配だと感じている災害」の関連

お住まいの地域	人数	問4 あなたの住む地域で心配だと感じている災害は何ですか。(4つまで)										
		豪雨・洪水	大地震・液状化	強風・台風	豪雪・雪崩	地滑り・土砂崩れ	津波	寄回り波・高波	大火災、山火事	災害はな	不安を感じている	放射線
平野部(市街地)	791人	490 62%	476 60%	337 43%	212 27%	47 6%	67 8%	82 10%	41 5%	30 4%	3 0%	
平野部(郊外)	467人	276 59%	272 58%	265 57%	153 33%	42 9%	34 7%	36 8%	21 4%	18 4%	3 0%	
海沿い(海の近く)の平地	157人	63 40%	101 64%	48 31%	19 12%	9 6%	102 65%	7 4%	4 3%	11 7%	2 1%	
海沿い(海の近く)の段丘・台地等	11人	7 64%	10 91%	5 45%	2 18%	5 45%	3 27%	0 0%	0 0%	1 9%	1 9%	
山沿い	116人	61 53%	45 39%	50 43%	47 41%	51 44%	4 3%	9 8%	5 4%	3 3%	2 2%	
山間地	61人	33 54%	23 38%	26 43%	35 57%	47 77%	1 2%	6 10%	0 0%	3 5%	1 2%	
川のそば	132人	105 80%	67 51%	46 35%	37 28%	15 11%	20 15%	8 6%	4 0%	2 2%	1 4%	
全体	1,616人	945 58%	933 58%	769 46%	472 29%	199 12%	199 12%	143 9%	73 5%	66 4%	11 1%	

無回答14

※「全体」は、実人数の数値

(3) 問11「災害時の気象状況や避難等に関する情報の入手方法」の年代別状況

年代	人数	問11 豪雨、台風、地震などの時の気象や河川、避難等に関する情報を入手するために、どのようなものを積極的に活用したいと思いますか。(該当するものすべて)											
		テレビ	インターネット上の	ラジオ	行政(市町村)からのメール	防災アプリ	など	ES、SNS、Facebook、LINE	新聞	家族や近隣の方から	村(町)行政(国・県・市町)	わからない	その他
20歳未満	244人	197 81%	127 52%	87 36%	44 18%	66 27%	122 50%	21 9%	37 15%	33 14%	8 3%	4 2%	0 0%
20代	164人	124 76%	92 56%	36 22%	38 23%	48 29%	101 62%	15 9%	24 15%	31 19%	3 2%	2 1%	2 1%
30代	122人	87 71%	92 75%	40 33%	32 26%	43 35%	67 55%	9 7%	12 10%	28 23%	1 1%	0 0%	0 0%
40代	196人	160 82%	141 72%	74 38%	87 44%	76 39%	71 36%	32 16%	29 15%	49 25%	0 0%	1 1%	0 0%
50代	276人	225 82%	205 74%	109 39%	107 39%	112 41%	91 33%	59 21%	46 17%	60 22%	1 0%	2 1%	1 0%
60代	258人	206 80%	145 56%	126 49%	132 51%	121 47%	49 19%	80 31%	48 19%	49 19%	0 0%	1 0%	0 0%
70歳以上	347人	297 86%	108 31%	188 54%	154 44%	91 26%	43 12%	162 47%	97 28%	34 10%	4 1%	1 0%	2 1%
無回答	9人	6 67%	4 44%	5 56%	5 56%	5 56%	1 11%	2 22%	2 22%	1 11%	0 0%	0 0%	0 0%
全体	1,616人	1,302 81%	914 57%	665 41%	599 37%	562 35%	545 34%	380 24%	295 18%	285 18%	17 1%	11 1%	5 0%

(4) 問12「自助」「共助」「公助」のどれに重点をおくべきと考えるか」の年代別状況

年代	人数	問12 自然災害が起こった時に、「自助」「共助」「公助」のどれに重点を置くべきと考えますか。(1つ)					
		べき「自助」に重点をおく	べき「共助」に重点をおく	べき「公助」に重点をおく	取るべき「自助」「共助」「公助」のバランスを	その他	無回答
20歳未満	244人	64 26%	36 15%	17 7%	126 52%	3 1%	0 0%
20代	164人	57 35%	29 18%	15 9%	68 41%	0 0%	0 0%
30代	122人	35 29%	17 14%	9 7%	60 49%	1 1%	0 0%
40代	196人	57 29%	19 10%	11 6%	115 59%	0 0%	0 0%
50代	276人	63 23%	30 11%	22 8%	160 58%	1 0%	2 1%
60代	258人	77 30%	27 10%	17 7%	133 52%	0 0%	4 2%
70歳以上	347人	135 39%	48 14%	20 6%	131 38%	3 1%	11 3%
無回答	9人	2 22%	1 11%	1 11%	5 56%	0 0%	0 0%
全体	1,616人	490 30%	207 13%	112 7%	798 49%	8 0%	17 1%

(5) 問15「『エシカル消費』という言葉の認知度」の年代別状況

()は、令和5年度調査

年代	人数	問15 エシカル消費という言葉を知っていますか。(1つ)				
		し意味 ていま るで 理解	しお てお む るね 理解	あ聞 いた こと が	知 ら な い	無 回 答
20歳未満	(205人)	22 (7)	39 (22)	55 (33)	128 (143)	1 (0)
	244人	9% (3%)	16% (11%)	23% (16%)	52% (70%)	0% (0%)
20代	(261人)	32 (32)	43 (54)	30 (69)	59 (106)	1 (4)
	16人	20% (12%)	26% (21%)	18% (26%)	36% (41%)	1% (2%)
30代	(151人)	10 (15)	21 (34)	28 (30)	62 (70)	1 (2)
	122人	8% (10%)	17% (23%)	23% (20%)	51% (46%)	1% (1%)
40代	(244人)	14 (23)	44 (44)	54 (79)	84 (96)	0 (2)
	196人	7% (9%)	22% (18%)	28% (32%)	43% (39%)	0% (1%)
50代	(254人)	29 (28)	60 (70)	67 (58)	119 (95)	1 (3)
	276人	11% (11%)	22% (28%)	24% (23%)	43% (37%)	0% (1%)
60代	(274人)	26 (25)	63 (65)	57 (67)	110 (113)	2 (4)
	258人	10% (9%)	24% (24%)	22% (24%)	43% (41%)	1% (1%)
70歳以上	(324人)	20 (20)	78 (59)	68 (71)	168 (152)	13 (22)
	347人	6% (6%)	22% (18%)	20% (22%)	48% (47%)	4% (7%)
無回答	(5人)	3 (0)	2 (2)	2 (1)	2 (2)	0 (0)
	9人	33% (0%)	22% (40%)	22% (20%)	22% (40%)	0% (0%)
全体	(1,718人)	156 (150)	350 (350)	361 (408)	732 (777)	19 (37)
	1,616人	10% (9%)	22% (20%)	22% (24%)	45% (45%)	1% (2%)

(6) 問16「エシカル消費に関する行動で実践しているもの」の年代別状況

年代	人数	問16「エシカル消費」に関する次の具体的な行動のうち、あなたが実践しているものはどれですか。 (該当するものすべて)											
		マイ バッ グを 持参 する	け必 要な もの を必 要な 量だ	に電 気や 水を 節約 して 大切	うで 地産 地消 された ものを 買っ て買 地元	けは 手前 から 取る よる 心食 品	購入 後す ぐに 食べ る食 品	よ宅 配便 で再 配達 を減 らす	クリ サイ 製品 を買 うア ップ サイ	レつ いた ク製 品を 選ぶ よマ ーク エト の	の被 災地 や福 祉作 業所 など	な特 いに 心が けて いる こと は	寄付 付き 製品 を買 う
20歳未満	244人	150	100	52	23	69	24	19	16	4	47	3	0
		61%	41%	21%	9%	28%	10%	8%	7%	2%	19%	1%	0%
20代	164人	120	83	59	32	54	41	13	7	5	24	2	0
		73%	51%	36%	20%	33%	25%	8%	4%	3%	15%	1%	0%
30代	122人	101	61	34	30	39	47	10	4	8	13	2	0
		83%	50%	28%	25%	32%	39%	8%	3%	7%	11%	2%	0%
40代	196人	161	96	75	79	59	72	22	19	21	13	5	0
		82%	49%	38%	40%	30%	37%	11%	10%	11%	7%	3%	0%
50代	276人	239	143	114	130	91	116	34	35	31	18	10	2
		87%	52%	41%	47%	33%	42%	12%	13%	11%	7%	4%	1%
60代	258人	232	133	124	130	67	93	36	33	27	12	5	3
		90%	52%	48%	50%	26%	36%	14%	13%	10%	5%	2%	1%
70歳以上	347人	291	174	187	205	124	101	38	50	51	15	9	2
		84%	50%	54%	59%	36%	29%	11%	14%	15%	4%	3%	1%
無回答	9人	7	4	4	3	4	5	1	2	1	1	0	0
		78%	44%	44%	33%	44%	56%	11%	22%	11%	11%	0%	0%
全体	1,616人	1,301	794	649	632	507	499	173	166	148	143	36	7
		81%	49%	40%	39%	31%	31%	11%	10%	9%	9%	2%	0%

I 令和6年能登半島地震に関して

(1) 自宅の被害・影響については、「特に影響はなかった」と回答した人は56%で、44%の人は何らかの被害・影響があり、「家具・家電等の転倒、破損等(収納物の落下等を含む)」が29%、「建物の被害」が15%、「敷地の被害(塀の倒壊、液状化等)」が6%である。電気・ガス・水道のライフラインでは、「断水」が多い。

また、「その他」として、「庭の灯籠の倒壊」や「墓石のずれ、転倒」などの被害も見られる。

(2) 自身の被害・影響については、61%の人は「地震発生時、北陸地方にいたが、特に影響はなかった」と回答。また、「地震発生時、北陸地方以外の場所にいたので、特に影響はなかった」と回答した人が5%である。

20%の人が避難し、内訳は、「指定された避難場所等へ一時避難した」と「指定された避難場所等以外の場所に一時避難した」がともに9%、「指定された避難場所等へ1日以上避難した」と「指定された避難場所等以外の場所に1日以上避難した」がともに1%である。

(3) 能登半島地震によって受けた、物質的・精神的な面での影響では、「防災意識・対策の低さに気づいた」が63%と最も高く、「これまでの生活を見直すきっかけとなった」54%、「常に災害に対する不安を抱くようになった」35%と続き、震災の体験は災害に対する意識の変化に大きな影響をもたらしている。

II 災害・防災の意識などについて

(1) 災害に対して自分の住む地域は、「安全」または「ある程度安全」と思う人は65%で、「危険」または「ある程度危険」と思う人(21%)の3倍以上である。

これを地域別に見ると、「平野部」では「安全」または「ある程度安全」が70%以上と高く、「海沿い(海の近く)の平地」では「危険」または「ある程度危険」が57%と高い。(参考データ(1)参照)

(2) 自分の住む地域で心配だと感じる災害としては、「豪雨・洪水」と「大地震・液状化」がともに58%と高く、「強風・台風」46%、「豪雪・雪崩」29%と続く。

これを地域別に見ると、「豪雨・洪水」「大地震・液状化」「強風・台風」は、どの地域においても高く、特に、「川のそば」では「豪雨・洪水」が80%と突出して高いほか、「海沿い(海の近く)の平地」では「寄回り波・高波・津波」65%、「山間地」では「地滑り・土砂崩れ」77%が際立っている。(参考データ(2)参照)

III 災害に対する備えに関して

(1) 能登半島地震発生前と発生後での災害への備えの状況では、質問項目のすべてにおいて、地震発生後に高くなっている。

特に、「高い所に重いものは置かない」が64%、「非常用備蓄として食料や飲料水を確保している」が61%、「防災マップで避難場所、避難経路を確認している」が61%と高く、地震発生前の40%台から大きく伸びている。

また、「安否の確認方法を決めている」「家の内外の危険箇所を確認している」「家具・家電等の転倒・落下防止の備えをしている」「非常用持ち出し袋を常備している」も地震発生前の30%程度から50%程度へと大きく伸びている。

(2) 非常用持ち出し品として、「懐中電灯」66%と「飲料水」62%が高く、「食料品」46%、「衛生用品」41%と続くなど、種々準備している。

一方で、15%の人は「何も準備していない」と回答している。

- (3) 飲料水及び食品の家庭備蓄としては、飲料水、食品ともに「3～6日分」29%、「2日分」21%、「1日分」10%で、「1週間分以上」と回答した人は、飲料水では12%、食品では7%いるが、一方で「準備していない」と回答した人も、飲料水では27%、食品では30%いる。
- (4) 大型の家具・家電等の転倒・落下防止の備えとしては、「大部分固定している」が12%、「一部しか固定していない」が41%で、合わせて約半数の人が多少なりとも転倒・落下防止の対応をとっているが、一方で37%の人は、転倒等のおそれがある大型の家具・家電があるが、固定していない。
- (5) 自分の住む地域のハザードマップ及び防災マップの認知度・活用状況は、いずれも約40%の人は「わかりやすくまとめられており、役に立てたい」と回答しているが、一方で「全く読んでいない」「配布されていない、または知らない」と回答した人が、ハザードマップでは33%、防災マップでは40%いる。
- (6) 豪雨、台風、地震など災害時の気象や河川、避難等に関する情報の入手方法としては、「テレビ」が81%で、各年代で最も高く、「インターネット上のニュース」57%、「ラジオ」41%、「行政(市町村)からの防災メール」37%、「防災アプリ」35%の順となっている。「SNS(X、LINE、Facebookなど)」は34%であるが、30代以下では50%以上と高い。(参考データ(3)参照)

IV 自助、共助、公助に対する考え方について

- (1) 自然災害が起こった時の防災の三助(自助、共助、公助)の考え方としては、「「自助」「共助」「公助」のバランスを取るべき」が49%と約半数を占めているが、「「自助」に重点をおくべき」30%及び「「共助」に重点をおくべき」13%で、「「公助」に重点をおくべき」7%を大きく上回り、各年代においても同じ傾向となっている。(参考データ(4)参照)
- (2) 地域で必要と思われる防災の取組みとしては、「安全な避難所の確保」が58%と最も高く、「安全な避難経路・方法・手段の周知」48%、「災害発生をシミュレーションした避難訓練」40%と続き、避難に関する取組みが高くなっている。

V 行政に望むこと

防災について行政に特に望むこととしては、「ハザードマップの整備・周知」47%、「安全な場所での避難所の確保」46%、「起きる事態を想定しての防災教育や啓発活動」44%、「災害時の迅速で正確な情報の提供」43%が上位を占めている。

VI エシカル消費について

- (1) 継続的に調査を実施している「エシカル消費」についてお聞きしたところ、「エシカル消費」という言葉の認知度は、「意味まで理解している」10%と「おおむね理解している」22%を合わせると32%で、前年度調査の29%から3ポイント高くなり、認知度はようやく3割に達したが、「知らない」は前年度調査と同じく45%で半数近くを占めている。
 一方、前年度調査で特に認知度が低かった20歳未満では、「意味まで理解している」9%と「おおむね理解している」16%を合わせると25%で、前年度調査の14%に比べ11ポイント高くなり、また、「知らない」は52%で前年度調査の70%に比べ18ポイント低くなるなど、20歳未満において認知度が上がった。(参考データ(5)参照)
- (2) 「エシカル消費」に関する具体的な行動で実践しているものでは、「マイバッグを持参する」81%、「必要なものを必要な量だけ買う」49%、「電気や水を節約して大切に使う」40%などとなっており、「エシカル消費」という言葉の認知度にかかわらず、実践している人が多いといえる。ただし、「特に心がけていることはない」と答えた人が20歳未満で19%いるなど、若い年代ではエシカル消費の実践の意識が低い。
 (参考データ(6)参照)

今後の取組み

(1) 令和6年能登半島地震では、富山県は観測史上初めて震度5強の揺れに見舞われ、また、津波警報の発令などにより、多くの県民が避難するなど、震災の怖さを経験したにもかかわらず、災害への備えなど防災意識が必ずしも高いとは言えない人もいたことが、今回のアンケート調査でわかった。

このような状況を踏まえ、消費者協会及び消費生活研究グループ連絡協議会では、次のように取り組んでいきたい。

① 災害発生時には、まず、「自分の身は自分で守る」という「自助」の対応が求められることから、消費者協会の事業や消費生活研究グループの活動等を通じて、災害への備え、例えば、家庭で飲料水や食品を無理なく備蓄し、食品ロス削減にもつながる「ローリングストック」による家庭備蓄や、非常用持ち出し品の準備など、暮らしの中での防災の取組みについて、啓発等に努める。

また、「共助」による防災がうまく機能するためには、日頃の近隣住民とのコミュニケーションや地域行事への参加などが重要であることを呼びかけていく。

② 行政に対しては、「自助」「共助」「公助」のバランスを取るべき」と考える人が多かったことから、ハザードマップの周知や防災教育・啓発、災害時の迅速で正確な情報の提供などについて、様々な機会を通じて、こうした要望を伝えていく。

(2) 「エシカル消費」という言葉の認知度は、前年度調査よりわずかに上がり3割に達したが、「知らない」と答えた人も半数近くいる。

また、「マイバッグを持参する」「必要なものを必要な量だけ買う」などの行動は「エシカル消費」という言葉の認知度以上に実践されているが、一方で、「エコマークなど認証マークのついた製品やフェアトレード製品を選ぶ」「被災地や福祉作業所などの商品を購入する応援消費」などは低い水準にあることから、人や社会に優しいエシカル消費への理解が進むよう、消費生活研究グループの活動などを通じて、一層の普及啓発に努めていきたい。

ご協力いただき、ありがとうございました。

この調査に関するお問い合わせ先
富山県消費者協会
富山市湊入船町6-7
(県民共生センター内)
TEL 076-432-5690
FAX 076-432-5693